

トウネン（シギ科） 全長15センチ

トウネンはシベリア北東部とアラスカの寒帯で繁殖し、日本には旅鳥として春と秋の渡り時に数多く渡来します。渡りのコースは、殆どが海岸沿いで、日本では4～5月と8～11月頃数十羽から時には数百羽の群れが干潟や砂浜などで見られます。

9月5日、ペアーレ大仙野鳥講座でシギ・チドリ類の観察会を計画、受講生26名で潟上市の出戸浜海岸へと向かった。



波が引いた時が餌を探すチャンスです。

スズメほどの大きさの小形のトウネン。

誰かが号令でもかけているかのように、砂浜の上を右に左に集団移動。頭を左右に振りながら、クチバシを砂の中に刺し込んでいます。

砂浜に寄せては返す荒波を避け、僅かな間隙で餌を探しているのでしょう。餌は小形の甲殻類などの動物質のものです。



この小さな体で、毎年数千キロの旅を往復するとは驚きです。



水際で餌を探すものと、砂の上でくつろいでいるグループに分かれています。

群れで行動する野鳥はほとんどが警戒心が強いので、なかなか近くで見ることが出来ませんが、トウネンは違いました。

しゃがむなど姿勢を低くして動かずに待っていると、トウネンのほうから少しづつ近づいてきました。なんと、4~5メートルほどの距離になり、手を伸ばせば届くくらいです。

波打ち際を皆同じ方向へと走り出しました。まるで小学校の運動会でも見ているようです。このままいつまでも眺めていたい、愛嬌のあるトウネンでした。



一列になり走り出しました。



水面すれすれを飛ぶ姿は華麗です。



愛嬌のあるトウネンの行動と、青空に元気をもらいました。